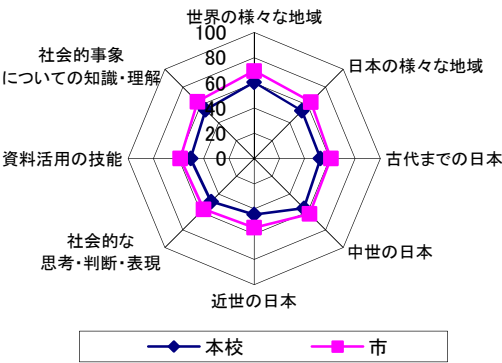


宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	60.5	69.4
	日本の様々な地域	53.5	63.4
	古代までの日本	52.5	60.8
	中世の日本	55.8	62.1
	近世の日本	44.5	54.9
観点別	社会的な思考・判断・表現	48.4	56.9
	資料活用・技能	50.5	58.7
	社会的な思考・判断・表現	54.6	63.7



★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	本校の本年度の習熟率は「60. 5」であり、市の「69. 4」と、10ポイント近くの開きが見られ、世界地理に関する知識の習得が好ましくないことがわかる。世界の諸地域を概括し、それぞれの地域の特徴を理解して把握することに難が見られる。これは、洞察力と理解力の形成が不十分で、見て読んで考えたことをまとめ、他に適切に表現力の習得が求められる。	基礎的・基本的な地理的な知識の定着を計りたい。地図になじむために地図の見方を身に付けさせて、興味と関心を持って世界や日本の諸地域の学習に取り組ませたい。また、写真や図や表といった各種の資料を活用し、それぞれの地域の特徴を読み取ってそれを発表できる表現力を習得させたい。地図になじませ、世界や日本の地理的な位置関係を明確にとらえさせ、それぞれの地域の位置関係を把握させたい。教科書の記述にあるそれぞれの地域の人の話に着目し、その地域の生活を自らの感覚として読み取れるようにさせたい。
	日本の様々な地域	本校の習熟度は「53. 5」、市の平均習熟度は「63. 4」と、これについても10ポイント近くの開きが見られる。地理的な学習において、日本国内を大きく分割化し、それぞれの特徴を他の地域との比較から把握することがやや困難なようである。各地域の特徴とそれが形成される理由等について、地理的思考を力を働かせて理解することが望まれる。	
歴史	古代までの日本	本校の習熟度は「52. 5」で市平均は「60. 8」となっている。歴史学習は積み重ねの学習形態で、古代より現代に至る連続性の展開を把握することに学習の目的がある。本校生徒には、この歴史学習の連続性の重要性が理解できていない。一度学習したことを基盤に、次事項へ発展させる系統的学習活動を身につけ意識化して学習に取り組む必要がある。	歴史的な基礎的・基本的な知識の定着を計りたい。歴史的用語や事実は繰り返し触れて身に付けさせ、その上で歴史的な出来事や人物に興味を持たせたい。歴史の連続性に気付かせるために、それぞれの歴史的事実が発生した原因やそれによってどのような結果をもたらしたかといった因果関係を把握させたい。歴史的人物に関しては、その人物の業績やその功績が当時の社会にどのような影響を与えたかを興味を持って読み取らせ、必要に応じて資料を読み取らせて印象付けさせたい。時代の変遷をそれぞれの区分に従って明確にとらえさせるために、歴史が連続していることを把握し、対外関係をはじめ各種の条件によってそれぞれの時代の歴史が特徴付けられている事をつかみ取らせたい。図・表・写真・文献といった各種の資料を駆使して歴史に興味を持たせ、なぜ・どうして？と言った疑問を持たせることから、ではそれはそれは・・・と言った過程で、疑問・仮定・検証という課題解決を目的とした学習に力を入れたい。その活動を通じて、自ら考え表現すると言った主体的な学習を実現したい。
	中世の日本	比較的なじみのある名称や出来事が多い中世の学習は、他の項目に比べて習熟度の割合が高めである。歴史学習への取組には、歴史的事実や歴史人物に関する興味関心の有無が大きく作用する。興味・関心を高めさせる工夫が必要である。政治・文化の項目について、文化面の内容の定着にやや難が見られる。	
	近世の日本	・市の平均と比べて10ポイント近くの差が見られる。学習内容の定着化を更に計ることが必要である。政治・経済・文化の各項目において、各時代での発展的な経緯を模索して、その特徴ならびにそれが後生にどのような結果をもたらしたか、その因果関係を把握する必要がある。苦手であるという意識があるためか、要領をつかめずに更に苦手意識が増長される傾向が見られる。	